男性不妊症

男性不妊症は別に珍しい疾患ではありません。

将来子供が欲しいと思った時、成り行きに任せていては叶わぬ願いになりかねません。できるだけ早めに調べておくことをお勧めします。
また実際に子供がなかなかできない時、おおよそ半分は男性側に原因があると言われています。当院の外来ではパートナーとご一緒にご要望をお聞きし、まず一通り検査をした上で、子供を得るという希望を叶えられるよう診療を進めていきます。
令和４年４月からこの分野への保険診療項目が拡大し、低廉な価格で診療が受けられるようになりました。
しかしながら、女性側の年齢制限や治療回数の制限が課せられ、これまであった助成金制度の終了など不妊治療を取り巻く環境が一概に良くなったとは言えません。
当院泌尿器科では１５年以上前から男性不妊症の診療に取り組んでおり、いかなる環境になろうとも今後も最善の治療を提案していきます。

外来治療

① 特発性造精機能障害に対して漢方やその他薬物療法を行っていますが、薬物療法に固執することなく、人工授精や体外受精などの生殖補助医療を平行して受けることをお勧めしています。

② 勃起障害や射精障害に対して薬物療法を行っていますが、人工授精や体外受精などの生殖補助医療を受けることを勧める場合もあります。

③ 低ゴナドトロピン性性腺機能低下症に対してホルモン補充療法を行っています。

手術療法

① 顕微鏡下精索静脈瘤低位結紮術

精索静脈瘤に対する手術療法は精液検査所見を改善し自然妊娠に至ることが古くから知られています。当院では主に静脈瘤の再発や手術合併症が少ない顕微鏡下精索静脈瘤低位結紮術を行っています。

② 顕微鏡下精巣内精子回収術 (Micro-TESE)

高度乏精子症や無精子症を呈する造精機能障害の患者さんで、精巣内精子回収術の適応がある方には顕微鏡下精巣内精子回収術 (Micro-TESE) を保険診療 [1]で行っています。

[1]回収した検体の処理と精子凍結保存は提携クリニック [2]で行い別途費用がかかります。
[2]現在パートナーが通院しているクリニックが当院と提携していなくても精子回収時に胚培養士さんを派遣していただけるようでしたら提携可能です。

③ 精管形成術

幼少期の鼠径ヘルニア手術の影響や精巣上体炎の影響で精管や精巣上体管が閉塞し無精子症となった方に精管形成術を行っています。不成功に終わる場合に備えて、同時に精巣内精子を回収 (Simple-TESE) することもできます。もちろん、ご要望に応じて先行することや不成功時まで待つことも可能です。

大船中央病院　泌尿器科外来　0467-45-2111（代）